

第91回 キネマ旬報ベスト・テン
文化映画第1位

フルーツ 人生

人生は、
だんだん美しくなる。

Life is Fruity



撮影：河野隆夫 提供：主婦と生活社

ナレーション 樹木希林

プロデューサー：阿武野勝彦 音楽：村井秀清 音楽プロデューサー：岡田こずえ 撮影：村田敦崇 音声：伊藤紀男 オーサング：山口幹生 TK：須田麻記子
音響効果：久保田吉根 編集：奥田繁 協力：日本映画専門チャンネル 監督：伏原健之 製作・配給：東海テレビ放送 配給協力：東風
2016年/91分/HD/16:9/日本/ドキュメンタリー ©東海テレビ放送

津端修一さん90歳、英子さん87歳 風と雑木林と建築家夫婦の物語 life-is-fruity.com



風が吹けば、

枯葉が落ちる。

枯葉が落ちれば、

土が肥える。

土が肥えれば、

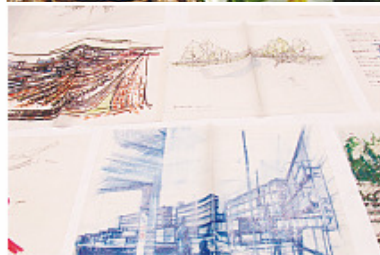
果実が実る。

コツコツ、ゆっくり。

人生、フルーツ。

むかし、ある建築家が言いました。
家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない。

愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、師であるアントニン・レーモンドの自邸に倣って建てた家。四季折々、キッチンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手で美味しいごちそうに変わります。刺繍や編み物から機織りまで、何でもこなす英子さん。ふたりは、たがいの名を「さん付け」で呼び合います。長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました。そう、「家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない」とは、モダニズムの巨匠ル・コルビュジエの言葉です。



かつて日本住宅公団のエースだった修一さんは、阿佐ヶ谷住宅や多摩平団地などの都市計画に携わってきました。1960年代、風の通り道となる雑木林を残し、自然との共生を目指したニュータウンを計画。けれど、経済優先の時代はそれを許さず、完成したのは理想とはほど遠い無機質な大規模団地。修一さんは、それまでの仕事から距離を置き、自ら手がけたニュータウンに土地を買い、家を建て、雑木林を育てはじめました。あれから50年、ふたりはコツコツ、ゆっくりと時をためてきました。そして、90歳になった修一さんに新たな仕事の依頼がやってきます。

本作は東海テレビドキュメンタリー劇場第10弾。ナレーションをつとめるのは女優・樹木希林。ふたりの来し方と暮らしから、この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとはじまります。

■日 時 7月28日(土) ①10:00 ②12:00 ③14:00

■場 所 荏田南幼稚園2Fホール ■入場料 500円 <当日券あり>

■主 催 荏田南文化サロン ■協力 荏田南社会福祉協議会

■問合せ 今西(090-2173-0538) / 江幡(080-3027-2211)